

会 報

No.44 (1993年2月)

目 次

◆1992年度日本分子生物学会評議員会議事録	1
◆第15回 日本分子生物学会総会議事録	3
◆分子生物学に関する欧文誌の発刊について	5
◆日本分子生物学会第8回評議員選挙について	6
◆第16回(1993年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その1)	8
◆新化学発展協会研究奨励金について	9
◆各種研究助成などへの本学会推薦について	10
◆各種シンポジウムのお知らせ	10
○千里ライフサイエンスセミナー「脳のトランスポーターとその機能」	10
○千里ライフサイエンスセミナー「老化と老年病(2)-最近の進歩-」	11
○第5回 蛋白工学会年会開催のお知らせ	12
○第2回 マリンバイオテクノロジー研究発表会開催要領	13
○第33回 日本先天異常学会学術集会予告	14
○第2回 核酸化学国際シンポジウム予告1	15
◆年会 講演要旨集 バックナンバー在庫のお知らせ	16
◆日本学術会議日より	17

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆1992年度日本分子生物学会評議員会議事録

日 時 1992年12月6日(日) 15:30~18:30

場 所 新都ホテル 八坂の間

出席者 三浦謹一郎(会長)、石浜 明、岩淵雅樹、大石道夫、小川英行、大島靖美、小関治男、高浪 満、谷口維紹、豊島久真男、富沢純一、中西重忠、松原謙一、村松正実、由良 隆、渡辺公綱(庶務幹事)、榊原祥公(会計幹事)、関口睦夫(編集幹事)、吉川 寛(集会幹事)、今本文男(第15回年会会長)

報告事項

- (1) 渡辺庶務幹事より、11月10日現在の個人会員は5323名(名誉会員2名、正会員3747名、学生会員1491名、外国在住会員83名)、賛助会員は29社(36口)で前年同期の約600名増であることが報告された。
- (2) 同じく本年度における研究助成候補推薦(会報42, 43号参照)共催、協賛依頼、会報掲載依頼、特許証明などの件数の報告があった。
- (3) 今本文男第15回年会会長より、この年会においては794題の口頭発表、731題のポスター発表、90題のシンポジウム講演と8題の特別シンポジウム講演が予定されていることなどの準備状況についての報告があった。

協議事項

- (1) 榊原会計幹事より前年度会計収支決算報告ならびに来年度事業計画および予算案が提示され、評議員会としては決定し、総会に諮ることとした。
- (2) 1993年度第16回年会について
1993年度第16回日本分子生物学会年会(東京地区)について、大石道夫年会会長より、会期は12月16日(木)~19日(日)、会場は幕張国際会議場および幕張メッセ(千葉市)で行う予定であり、特別講演は行わず、海外から数名を招待して20数題を予定しているシンポジウムに加わってもらうこと、一般発表形式の案などについての報告があり、了承された。
- (3) 1994年度第17回年会について
1994年度第17回年会会長を石浜 明国立遺伝研教授に委嘱することを決定した。石浜評議員より、会期および場所(東京、京都、神戸、名古屋など)を検討中である旨報告があり、来年開催の評議員会で決定することになった。
- (4) 欧文誌の発刊について
これまで2回の臨時評議員会(8月7日、11月9日)において検討を重ねたが、その後の経過について富沢純一評議員および将来計画委員会委員長である大石道夫評議員より報告があった(詳細は5頁を参照されたい)。三浦会長より、この計画は日本分子生物学会として精神的ならびに財政的に支援すべき事業として実施を決め、今後出版社との交渉を富沢、大石両氏に進めてもらうよう提案があり、評議員

会として満場一致で了承し、総会に諮ることになった。

(5) 評議員選挙について

三浦会長より従来4月後半に行われていた評議員の交代を年度替わりに行うため評議員選挙を約1カ月早めることが提案され了承された。選挙管理委員は東京地区の榊佳之評議員を長とし、後2名の委員の選定を一任することで承認された。ついで渡辺庶務幹事より選挙書類、会員名簿を次回会報と同時に2月5日（金）までに発送し、選挙投票締切を3月1日（月）、開票を3月5日（金）とする案が出され了承された。

(6) 臨時評議員会の開催について

評議員選挙後の役員交代および欧文誌発行などの懸案協議のため、来春3月中旬頃または4月上旬の臨時評議員会の開催が会長より提案され、日時、場所は会長に一任することで了承された。

(7) その他

日本学術会議分子生物学研究連絡委員会（内田久雄委員長）で検討して欲しい事項として、分子生物学研連主催のシンポジウムを地方で開催し、地方の活性化に役立てることなどにつき議論があった。

◆第15回 日本分子生物学会総会議事録

日 時 1992年12月9日(水) 13:30~14:30

場 所 国立京都国際会館 メインホール

(1) 三浦会長開会宣言の後、議長として小川智子(阪大・理)、広瀬 進(遺伝研)両氏が会長より推薦され、承認された。委任状193通を含め、総会の成立を確認した。

(2) 経過報告

a) 庶務報告: 渡辺庶務幹事より、前回総会以降の本学会事業の経過について報告があった。

b) 会長報告: 三浦会長より次年度年会(第16回)、次々年度年会(第17回)、欧文誌問題、評議員選挙に伴う選挙管理委員の選定など、評議員会での論議に基づいた報告があった。

(3) 議 事

a) 会計および事業計画: 榎原会計幹事より前年度(1991年)会計収支決算報告があり、承認された。

同じく来年度(1993年)事業計画および下記のような予算案についての説明があり、承認された。

1993年度日本分子生物学会収支予算案

(1993年4月1日~1994年3月31日)

収入の部

科 目	前年度予算額	予 算 案	摘 要
学 会 費	9,980,000	11,340,000	(入会金 200,000 正会員 8,440,000 学生会員 2,700,000 36口 名簿製作なし
賛 助 会 費	1,080,000	1,080,000	
広 告 収 入	2,000,000	0	
預 金 利 子	500,000	500,000	
雑 収 入	200,000	80,000	
小 計	13,760,000	13,000,000	(見込概算)
前年度繰越金	2,000,000	1,000,000	
合 計	15,760,000	14,000,000	

支出の部

科 目	前年度予算額	予 算 案	摘 要
事 業 費	2,800,000	3,000,000	
〔 会 報 発 行 プ ロ グ ラ ム 特 別 講 演 謝 金 第 17 回 年 会 補 助	〔 900,000 700,000 200,000 1,000,000	〔 1,100,000 700,000 200,000 1,000,000	ページ増 第16回 年会 ”
評 議 委 員 会 費	2,800,000	800,000	
〔 委 員 会 費 役 員 選 挙 名 簿 作 製 費	〔 800,000 2,000,000	〔 800,000 0	
業 務 委 託 費	4,400,000	5,000,000	会員増に伴う手数料up等
一 般 事 務 費	4,545,000	4,115,000	
〔 用 品 費 印 刷 費 通 信 費 庶 務 事 務 費 雑 費	〔 5,000 80,000 3,800,000 650,000 10,000	〔 5,000 150,000 3,300,000 650,000 10,000	会報に名簿同封なし
予 備 費	300,000	300,000	
小 計	14,845,000	13,215,000	
次 年 度 繰 越 金	915,000	785,000	
合 計	15,760,000	14,000,000	

※ 上記以外に将来事業準備金 8,000,000円（MMC定期預金）があります。

b) 欧文誌刊行問題：三浦会長より本問題の経過が報告され、本計画についての検討を評議員会から一任されている富沢純一評議員および大石道夫将来計画委員会委員長より欧文誌の刊行に關しての具体的な計画と出版社との交渉経過についての説明（詳細は5頁を参照していただきたい）があった。ついで三浦会長より、この計画を本学会の事業として全面的に支援したい旨の提案があり、承認された。具体的な財政支援の方法については、会員の意見を聞くためのアンケート調査を近々に行いたい旨の発言があり、協力が要請された。

(4) その他

総会終了後、今本文男第15回年会会長の挨拶があり、引続き大石道夫次回年会会長より第16回年会の日程と準備状況についての説明があった。

◆分子生物学に関する欧文誌の発刊について

日本分子生物学会は、1978年に設立されたがその後急速な発展を遂げ、現在会員数約5,400名を数えるに至った。この様な本学会の発展に鑑み、本学会が主宰する定期欧文（英文）分子生物学誌の刊行が望まれ、ここ数年評議員会を中心に検討されていたが、一昨年（1991年）の年会において本誌の基本的編集方針を富沢純一国立遺伝学研究所長に一任することが決定された。また、本年2回の臨時評議員会における討議を経てその大要が昨年（1992年）の日本分子生物学会総会において公表され、発刊が正式に決定された。本誌のタイトルは現在のところMolecular and Cellular Mechanismsを第一候補としており、日本の分子生物学者のオリジナルな論文を発表する分子生物学の専門誌であると同時に、広く世界的に分子生物学者の業績発表の場とし、国際的な分子生物学の一流専門誌を目指すものである。このような日本からの国際的な分子生物学専門誌の刊行は従来ともすれば外国に頼っていた基礎科学の論文発表の役割の一部を日本が担うという国際的意義も十分に考慮に入れた。論文の対象は原核生物・真核生物を問わず分子生物学全般をカバーするが、現在の分子生物学の中核を占める分子レベルまたは細胞レベルからみた生物の基本的諸反応に関する論文を中心とする計画である。本誌はその内容が国際的な視野に立つことを考慮し、日本の出版社よりも専門誌の刊行に長い経験を持ち、かつイギリス、オーストラリア、アメリカに基盤をもつBlackwell社に発行を依頼することに決定し、近く正式な契約がなされる予定である。編集は富沢純一博士を中心に、従来の我が国の欧文学会誌の枠を越え、数十人の国際的な分子生物学者（日本人の割合は約25%）よりなるEditorial Boardにより行う。本誌は1994年7月の発刊を予定しているが、当初の一年半は隔月刊、1996年1月より毎月刊で刊行する予定である。Blackwell社は印刷、配布などについて責任を負うが日本分子生物学会はこの点に関して協力する一方、特に編集に関して精神的・人的および財政的に全面的支援を行う。具体的な財政的支援方法に関しては追って会員諸氏の意見を聞く予定であるが、分子生物学会の最重要事業の一つとしての本誌の刊行に関して会員諸氏の理解と協力を心から期待したい。

将来計画委員会委員長 大石 道夫

◆日本分子生物学会第8回評議員選挙について

日本分子生物学会会則第11条と同細則第7条(次頁)によって、第8回評議員選挙を行います。去る1992年12月6日の評議員会において第8回評議員選挙の管理委員として、榑 佳之(東大医科研)、小林一三(東大医科研)、橋本雄之(国立予研)の3氏が委嘱されました。

次いで選挙管理委員3名の打合せを経て、具体的には次のように選挙を行うことになりましたので、会員各位のご協力をお願いいたします。

記

今回の選挙における選挙権者、被選挙権者は、1992年12月10日までに入会手続を行った正会員とします。同封の「会員名簿」より10名を選んで、その氏名を投票用紙にご記入ください。投票用紙を同封の小封筒(投票用紙在中と印刷)に入れ封をした後、同封の送付用封筒(選挙管理委員会御中と印刷)に入れて、ご自分の住所、所属および氏名を記入の上ご送付下さい。

投票締切日 1993年3月1日(月)(必着)

開票予定日 1993年3月5日(金)

当選者の決定 得票数の多い順に20名を当選者とします。同数得票の場合は年長順とします。

なお、次の場合には投票または被記名者が無効となりますので、ご注意ください。

- 1) 投票用紙に10名以上連記した場合。但し10名以下の場合には有効です。
- 2) 投票者の氏名が送付用封筒に記入されていないとき。
- 3) 日本分子生物学会細則第7条3項により、以下の方は連続して評議員になることができませんので、今回は記名しないで下さい。なお、この方々に投票のあった場合には、その方に関してのみ、無効といたします。

饗場弘二、大石道夫、小川英行、小関治男、榑 佳之、中西重忠、三浦謹一郎、水野重樹、村松正実

1992年12月15日

日本分子生物学会選挙管理委員会

榑 佳之

小林 一三

橋本 雄之

会 則 (抜すい)

第10条 本会には、会長1名、評議員若干名、会計監査2名の役員をおく。

1. 会長は本会を代表し、会務を統括する。
2. 評議員は評議員会を構成し、本会に関する事項を審議する。
3. 会計監査は本会の会計を監査する。

第11条 評議員は正会員の中から投票により選出される。会長は評議員の互選により定める。会計監査は評議員、幹事以外の正会員の中から評議員の投票により選出される。役員任期は2年とする。

細 則 (抜すい)

第7条 評議員の選出は次のように行う。

1. 会長は正会員の中から3名を選んで選挙管理委員会を委嘱する。
選挙管理委員会は選挙事務を行う。
2. 投票は1人1票、無記名10名連記とし、郵送によるものとする。
3. 評議員は連続して3回選出されることはない。この制限に抵触する者の氏名は選挙要項に公告される。
4. 得票者中の上位の者より順に20名を選出する。同数得票者については選挙要項に従って順位を定める。

第8条 新会長の選任は次のとおり行う。

1. 会長は新評議員を招集する。新評議員の互選により新会長を選ぶ。
2. 投票は無記名单記とする。投票総数の過半数を得た者を新会長とする。
3. 投票総数の過半数を得た者がいないときは、高点順に2名をとり改めて投票を行い、最高点者を新会長とする。このとき同点の場合には抽選により決定する。
4. 会長は連続して3回選出されることはできない。
5. 会長は評議員を兼ねるものとする。

◆第16回（1993年）日本分子生物学会年会のお知らせ（その1）

第16回 日本分子生物学会年会は下記の要領にて開催されます。

1. 会 期：1993年12月16日（木）～19日（日）
 総会および懇親会 12月18日（土）
2. 会 場：幕張国際会議場および日本コンベンションセンター（幕張メッセ）
 東京駅よりJR京葉線快速で約30分 海浜幕張駅下車 徒歩5分
3. 発表形式：大要は下記のとおりですが、詳細は次回の会報でお知らせいたします。
 - (1) 年会はシンポジウム、ポスター・ディスカッション、バイオテクノロジー・セミナーで構成する。シンポジウムは約20～25題を予定している。
 - (2) 特別講演は行わず、数名（5～8名）の海外中堅分子生物学者を招待し、いくつかのシンポジウムにおいて日本人発表者と一緒に発表、討論に参加してもらう（また、その頃に来日予定の他の海外分子生物学者にも出来るだけ年会に参加していただくよう努力する）。

発表形式、実際の運営等についていろいろご意見があるかと思えます。我々としては、よい年会を持ちたいと考えておりますので、ご意見、ご希望がありましたら、なるべく早い時期に私あてにFAXまたは手紙にてお知らせ下さい。

〒113 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学応用微生物研究所

大石道夫

（第16回 年会世話人）

TEL 03-3812-2111 内線7834

FAX 03-3818-9437

第16回（1993年）日本分子生物学会年会でのシンポジウムについてのお願い

本年度の研究発表はシンポジウムとポスターになり、シンポジウムは20～25題を考えています。各シンポジウムのタイトル（簡単な理由を添えて）および世話人についてご希望を出来るだけ早い機会に上記の年会世話人あてにお寄せ下さい。特に必ずしも現在の分子生物学の枠内にとらわれない将来発展するようなテーマについての提案を歓迎いたします。

◆新化学発展協会研究奨励金について

研究奨励金の交付と研究計画の募集について

社団法人 新化学発展協会

社団法人 新化学発展協会においては、基礎研究の推進と研究者の育成を通じて新化学の発展を図るため、新化学の発展に資する若手研究者の研究に対し、概要下記の通り、研究奨励金を交付いたします。研究奨励金の交付を希望される方は、下記の課題の中から1つを選んで研究計画を作成し、略歴、既発表論文の一覧表とともに協会事務局まで提出して下さい（詳細は新化学発展協会までお問合わせ下さい）。

記

1. 研究課題

- ① 生命体の分子・細胞・組織レベルにおける形状・構造と機能発現との関連（解析）を基にした自然を超える機能性素子・システムの開発に関する基礎的研究
- ② 細胞接着因子の機能に関する基礎的研究
- ③ 量子閉じ込め材料の理論、設計、作成および評価に関する研究
- ④ 有機薄膜の光変換機能に関する研究
- ⑤ 繊維強化型ポリマーマトリックス複合材料に新たな機能を付与する研究
- ⑥ 熱などに応答する高分子ゲルに関する研究
- ⑦ ミクロポアを有する結晶体または制御された表面構造を有する固体を利用した形状選択性触媒反応の研究
- ⑧ 高分子多相系の構造とレオロジー特性の関係予測法の研究
- ⑨ 環境問題に対応した、酵素、微生物、生体ハイブリッドを用いる化学品製造のための新しい反応プロセスに関する研究

2. 応募資格

大学等における研究者であって、39歳以下の者（昭和28年4月1日以降に出生した者）

3. 件数および金額

原則として各課題毎に1件、1件につき150万円

4. 条 件

1～2年以内に協会の研究会等で研究成果を報告する。

5. 応募の締切りおよび交付の時期

応募の締切り 平成5年3月12日（金）

奨励金の交付 平成5年6月の予定

6. 応募および問い合わせ先

〒101 東京都千代田区神田駿河台 1-5 化学会館 4 階
社団法人 新化学発展協会 研究奨励金係
TEL 03-3294-8031

◆各種研究助成などへの本学会推薦について

- (財)ブレインサイエンス振興財団第 7 回研究助成候補者として本学会選考委員の意見に従い、下記 1 件を推薦した。

吉原基二郎 (群馬大・医)

- 第 5 回 (1992 年度) 東燃研究奨励賞受賞者が本学会より推薦していた下記 2 名に決定し、平成 4 年 12 月 8 日京都国際会議場の第 15 回年会会場において、授与式が挙行された。

篠原 彰 (大阪大・理)

鈴木 信弘 (秋田県立農業短期大附属生物工学研)

◆各種シンポジウムのお知らせ

- 千里ライフサイエンスセミナー

「ブレインサイエンスシリーズ 第 5 回 脳のトランスポーターとその機能」

日 時 平成 5 年 3 月 12 日 (金) 10:00~16:50

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル 5 階ライフホール

(地下鉄御堂筋線千里中央駅北口すぐ)

(大阪府豊中市新千里東町 1-4-2)

主 催 財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ 大阪大学医学部教授

遠山 正彌

プログラム

1. 神経伝達物質のトランスポーターの構造・機能・分布

— ドーパミントランスポーターを中心に —

大阪大学医学部解剖学第 2 講座助手

島田 昌一

広島大学歯学部歯科薬理学講座助手

北山 滋雄

2. GABA トランスポーターとその制御機構

神戸大学医学部薬理学講座講師

齋藤 尚亮

3. ベタインおよびミオイノシトールトランスポーター

大阪大学医学部内科学第 1 講座医員

山内 淳

4. グルコーストランスポーター

京都大学医学部臨床代謝栄養学講座助教授 清野 裕

5. シナプス小胞におけるH⁺-ATPaseと伝達物質の濃縮機構

大阪大学産業科学研究所合成化学工業部門教授 二井 将光

6. トランスポーターのイメージング

大阪大学医学部トレーサー情報解析学講座教授 西村 恒彦

受講料（講演要旨集合む）

会 員（但し、大学、官公庁、当財団賛助会員、主催・協賛団体会員）： 5,000円

非会員： 7,000円

学 生： 3,000円

定 員 200名

参加申込方法 ①氏名 ②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、FAX番号

③振込予定日を明記の上、郵便またはFAXで下記宛お申し込み下さい。参加費は申込後に三和銀行千里中央支店・普通預金No. 3656634・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛開催日の3日前までにお振込下さい。なお振込の際振込者名の前にB5とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付いたします。

申込先（財）千里ライフサイエンス振興財団

「ブレインサイエンス」セミナー係

〒 565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL (06)873-2001 FAX (06)873-2002

担当：江口・松尾

○千里ライフサイエンスセミナー

「老化と老年病(2)-最近の進歩-」

日 時 平成5年4月23日（金） 10:00~16:30

場 所 千里ライフサイエンスセンタービル5階ライフホール

（地下鉄御堂筋千里中央駅北口すぐ）

（大阪府豊中市新千里東町1-4-2）

主 催 財団法人千里ライフサイエンス振興財団

協 賛 株式会社千里ライフサイエンスセンター

コーディネータ・座長 大阪大学医学部教授

荻原 俊男

大阪大学名誉教授

熊原 雄一

プログラム

1. 加齢と疾病－老年病の現状－
東京都老人医療センター院長 蔵本 築
2. 老化の生理学
山梨医科大学副学長 入來 正躬
3. 老年痴呆の生化学
大阪大学医学部教授 西村 健
4. アルツハイマー病の分子生物および分子遺伝学
東京医科歯科大学教授 宮武 正
5. 長寿の疫学的考察
琉球大学医学部教授 松崎 俊久

受講料（講演要旨集含む）

会 員（但し、大学、官公庁、当財団賛助会員、主催・協賛団体会員）	： 5,000円
非会員	： 7,000円
学 生	： 3,000円

定 員 200名

参加申込方法 ①氏名 ②勤務先、所属、役職名、所在地、〒、電話、FAX番号
③振込予定日を明記の上、葉書またはFAXで下記宛お申し込み下さい。参加費は申込後に三和銀行本店営業部・普通預金№1811008・財団法人千里ライフサイエンス振興財団口座宛開催日の3日前までにお振込下さい。なお振込の際振込者名の前にR2とご記入下さい。ご送金確認次第、領収書兼参加証を送付いたします。

申込先 (財)千里ライフサイエンス振興財団

「老化と老年病」セミナー係

〒 565 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル8階

TEL (06)873-2001, FAX (06)873-2002

担当：江口・松尾

○第5回 蛋白工学会年会 開催のお知らせ

日 時 1993年5月10日（月）・11日（火）

場 所 京都国際会議場

発表申込締切 1993年2月28日（土）

予稿原稿締切 1993年3月31日（水）

発表申込は、1)発表題目、所属、著者（発表者に○）、2)申込者氏名、連絡先、（郵

便番号、所在地、所属、FAX、TEL)、3)ポスタープレビュー(90秒)の希望の有無を明記し、4)100字程度の要旨を添えて準備委員会までお送りください。今回は、相当数の国外からの参加者が見込まれますので、予稿原稿はB5判1枚程度の英文とさせていただきます。要旨の書式等の詳しい案内は申込を受付次第、申込者の方へ直接ご連絡いたします。一般講演はポスター発表を原則といたしますが、希望により90秒のプレビュー講演が可能です。また、一般のポスター発表の中から数件を準備委員会を選び、口頭発表をお願いする予定です。

連絡先 京都大学理学部化学科

第5回 蛋白工学会年会準備委員会 郷 信広

〒606 京都市左京区北白川追分町

TEL (075)753-4017 FAX (075)711-6083

参加費 予約(3月31日まで) 3,000円、当日 4,000円

懇親会費 予約(3月31日まで) 8,000円、当日 9,000円

学 生 いずれも半額

振込先 京都3-77210 蛋白工学会第5回年会

○第2回 マリンバイオテクノロジー研究発表会 — 開催要領について —

主催 マリンバイオテクノロジー研究会

協賛 海洋バイオテクノロジー研究所(予定)

日本分子生物学会 他

日時 平成5年5月29日(土)・30日(日)

会場 東京農工大学工学部(小金井市)、工学院大学(新宿区、総会&懇親会)

講演申込締切 平成5年3月26日(金)

①題、②分類(下記の1~16の番号を記入)、③発表者(講演者に○をして下さい)、④所属、⑤申込者住所電話番号を明記して下記あてに申し込んで下さい。

一般講演(15分)

1. 大型藻類
2. 微細藻類
3. 海洋微生物
4. 魚介類
5. 生理活性物質
6. 生理、生化学
7. 支援技術・その他

シンポジウム(一般15分、依頼・招待30分)

8. マリンバイオミネラルリゼーション

9. 大型藻類のバイオテクノロジー
10. 微細藻類によるCO₂固定と地球環境問題
11. 石油分解
12. 付着生物の生理機構とその防除
13. 生化学資源としての海洋天然物
14. 極限環境微生物
15. トランスジェニックフィッシュ工学と遺伝子組み替え
16. その他

アブストラクト締切 平成5年4月30日(金)

参加費(要旨集含む) マリンバイオテクノロジー研究会学術会員 4,000円
 上記以外 9,000円

申込先 〒184 東京都小金井市中町2-24-16

東京農工大学工学部・物質生物工学科・松永研究室内
 マリンバイオテクノロジー研究発表会実行委員会
 TEL 0423-81-4221(375) FAX 0423-85-7713

○第33回 日本先天異常学会学術集会 予告

第33回日本先天異常学会学術集会を下記のごとく開催いたします。多数の方々の演
 題応募と学術集会へのご参加をお待ちいたします。

第33回日本先天異常学会学術集会
 会長 三浦 隆行
 (名古屋大学医学部整形外科学教授)

記

会 期 平成5年7月21日(水)・22日(木)・23日(金)

会 場 名古屋市中小企業振興会館(吹上)

学術集会

1. 会長講演

「手の先天異常」 三浦 隆行(名古屋大学 整形外科)

2. 招待講演

「*Cellular positional information in chemical and genetic teratogenesis*」
 Nigel A. Brown, Ph.D. (St. George's Hospital Medical School)

3. シンポジウム

- (1) 先天異常における最近の染色体研究
- (2) 顎顔面先天異常の臨床

- (3) 先天性骨系統疾患の基礎と臨床 — 小人症を中心に —
- (4) 臓器別胎児異常の出生前診断とその治療
- (5) 神経提細胞と先天異常
- (6) 四肢の先天異常 — その基礎的・臨床的研究の発展 —

※ 学会出席、研修講演など、各科の臨床認定医資格継続申請に必要な手続を行っております。詳細はプログラムに掲載いたします。

演題募集

日本先天異常学会誌「先天異常32巻4号（12月発行予定）」に綴込みの案内に従い、同誌に綴込みの用紙を使用してください。なお2題以上出題予定の方、未入会で出題希望の方は送付先住所・氏名を明記して、返信用切手¥175を同封のうえ12月1日以降に下記事務局まで直接応募用紙を請求してください。

演題応募締切り 平成5年3月31日（水）必着

連絡・問い合わせ・応募用紙請求先

〒461 名古屋市東区白壁1-45 白壁ビル6階

(株)セントラルコンベンションサービス内

第33回 日本先天異常学会学術集会 事務局

TEL 052-971-5552 FAX 052-951-3600

○第2回 核酸化学国際シンポジウム（第20回 核酸化学シンポジウム）予告1

と き 平成5年11月9日（火）～11日（木）

と ころ 共済ホール（札幌市北区北4条西1丁目共済ビル6階）

TEL 011-241-2661～4

共 催 日本分子生物学会 他

討論主題 核酸および関連化合物の有機化学、物理化学、分析化学、生化学および分子生物学

発表形式 一般講演はポスターとし、そのうちいくつかを口頭発表（英語）とします。口頭発表の希望の有無を申込の際にお書き下さい。最終的な決定は組織委員会に一任願います。

講演申込締切 平成5年4月30日（金）

B5判の用紙に、1)演題（英語）、2)発表者の所属、氏名（講演者に○）、3)連絡先（〒、TEL）、4)和文要旨（約200字）、を記載し申込受領通知の葉書（返信宛先および演題名を記入）を添え申込み下さい。

講演要旨英文原稿締切 6月15日（火）

申込者には後日、講演要旨作成要領、原稿要旨を送付いたしますので、同要項に

従って英文要旨を作成の上、期日までにご返送下さい。要旨はNucleic Acids Symposium Series (1993) としてIRL Press社より発行され、参加者にお渡しする予定です。また、各要旨の別刷100部を印刷して、当日購入していただく予定です(10,000円程度)。

参加予約申込締切 平成5年8月31日(火)

住所、氏名、所属を明記の上、郵便振替(小樽9-35413第2回核酸化学国際シンポジウム)にて参加登録費をご送金下さい。なお、参加登録証は当日会場にてお渡しいたします。

参加登録費(含昼食代) 予約 一般 30,000円

学生 15,000円

当日 5,000円増し

懇親会 11月10日(水) 18:30~を予定しております。参加申込は前日受付ます。

宿泊案内、航空券割引案内 参加予約申込者にはトゥディ・トラベル・サービス

(TEL 011-721-3699、担当 吉松)より宿泊案内書等をお送りいたします。

その他の希望者は上記宛お申込み下さい。

申込および連絡先

〒060 札幌市北区北12条西6丁目

北海道大学薬学部 遺伝子有機化学講座

大塚栄子、井上英夫、または薬化学講座 松田 彰

TEL 011-716-2111 内線3975(大塚)、3750(井上)、3228(松田)

FAX 011-717-3267

◆年会 講演要旨集 バックナンバー在庫のお知らせ

下記の年会講演要旨集のバックナンバーの在庫がございます。

ご希望の方は、事務局までハガキにてお申込み下さい。

第5回年会(9) 第12回年会(143)

第6回年会(3) 第13回年会(103)

第7回年会(26) 第14回年会(105)

括弧内の数字は残部数

<料 金>

第5回~第13回までは、1冊3,000円。第14回は、1冊4,000円です。

秋の総会開催される

平成4年11月 日本学術会議広報委員会

日本学術会議は去る10月21日から23日まで、第115回総会を開催しました。今回の日本学術会議だよりでは、同総会の議事内容及び総会中に発表した会長談話等についてお知らせします。

日本学術会議 第115回総会報告について

日本学術会議第115回総会（第15期・第4回）は、10月21日～23日の3日間開催されました。

総会の初日は、会長からの前回総会以降の経過報告に続いて、運営審議会附置委員会、部会、常置委員会、国際対応委員会、特別委員会の各委員長、部長からの報告がありました。また、本年9月27日から10月11日までの間、二国間学術交流委員会の代表団がアメリカ合衆国を訪問し、アメリカ合衆国の学術の現状を視察するとともに、大統領補佐官を始めとする連邦政府機関の関係者、国立科学財団の関係者、その他関係機関の関係者との意見交換を行い、多大なる成果が得られたとの訪米報告が行われました。午後からは各部会が開催され、国際対応委員会や研究連絡委員会の在り方等について審議が行われました。

なお、二国間学術交流の成果等に関する「平成4年度日米学術交流について」の会長談話を21日付けで発表しました。

総会2日目は、学術分野における国際貢献に関しての自由討議が行われ、国際貢献の意義、方針等について活発な討議が行われました。本件については、日本学術会議第15期活動計画の中に重点目標として掲げられており、また、昨年の第113回総会において内閣官房長官から、学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討し、意見を出すよう求められ、以来、日本学術会議としては重要案件として審議してきたものです。

午後からは、米スペースシャトル「エンデバー」で微小重力実験に取り組んだ毛利衛さん、向井千秋さん、土井隆雄さんの三宇宙飛行士を招き、実験成果等の報告をしていただくとともに会員との意見交換が行われました。

なお、「学術分野における国際貢献について」の会長談話を22日付けで発表しました。

総会3日目は、文化としての学術特別委員会を始めとする各特別委員会、各常置委員会が開催されました。

平成4年度日米学術交流について(会長談話)

平成4年10月21日

- 1 本年度の日本学術会議の二国間学術交流事業として、9月27日から10月11日までの2週間にわたり、私を団長とし、各部所属の会員7名、その他事務局2名、計10名で構成する代表団がアメリカ合衆国を訪問した。
- 2 今回の日米学術交流は、21世紀に向けて我が国の学術の発展向上を図るためには、日米両国の緊密な連携協力が不可欠であることから、アメリカ合衆国の学術研究の現状と動向について調査するとともに、関係機関の責任者等と忌憚ない意見交換を行うためであった。なお、この機会に、いわゆるビッグ・サイエンスの象徴ともいべきSSC、NASA、NIH等の現地視察を行った。
- 3 連邦議会の会期末で1993年度予算案の調整等のため極めて多忙な時期であったにもかかわらず、いずれの機関においても、トップ又はそれに準ずる責任者が自ら出席するなど、代表団は温かく誠意あふれた応接を受け、関係者の日本の学術への期待が極めて大きいことが印象的であった。代表団の感想として特記すべき点をいくつか挙げれば、次のとおりである。
 - (1) アメリカ合衆国の学術政策の基盤は、確固たるものがあり、これに割り当てられる国家予算のスケールも大きい。これは、学術に対する同国の期待の大きさを表すものである。例えば、1863年にリンカーン大統領のイニシアティブで設立された科学アカデミーは、政府からの独立を前提とし、政府、議会の諮問に応えるなど、政府、議会との緊密な連携の下に、国民並びに人類の福祉の向上に寄与しているが、その後設立された工学アカデミー、医学会とともに、総額約250億円余に上る予算を毎年政府から受け取っている。これは、日本学術会議の使命と今後の発展を考える上で参考となるものである。

(2) 学術の国際協力については、日米両国は、経済力、先端科学技術の水準から見ても、世界の中で指導的役割を果たすべき立場にあり、両国の学術交流を中心として新しい時代の知識と技術を創造し、人類の発展に寄与していく必要がある、との認識がアメリカ合衆国の関係者にあり、我が国としても、このことを考慮すべきである。

(3) 日本政府が本年4月に決定した科学技術政策大綱における国家予算の倍增計画については、アメリカ合衆国の関係者は、大きな期待と好意とをもって注目している。

(4) S S C、宇宙開発などのビッグ・サイエンスについては、それぞれの計画が学術における開拓者精神とでもよぶべき情熱をもって推進されていることを、認められた。特に、3名の日本人宇宙飛行士達との懇談は感動的ともいふべき印象を残した。

また、S S C計画への資金面での参画問題については、我が国の学術研究の基盤自体が不十分であり、これの充実強化が優先的課題であること、欧州やアジア諸国等との協力をどう考えるか、S S C計画自体への国民の理解をどう促進するか、など今後早急に検討しなければならない課題があること、などの当方の説明に対して、これを傾聴する姿勢が見られた。

4 今回の日米学術交流の間に形成された代表団の一致した認識は、冷戦終焉後の新しい世界秩序形成過程における諸課題の一つとして、学術のあらゆる領域にわたっての国際協力が今後ますます重要性を持つということであった。そのことは、今回の代表団へのアメリカ合衆国側の対応からも十分窺われるところであった。

5 代表団としては、今回の訪米の結果について、総会、運営審議会、その他の関連の委員会等において会員に報告するとともに、政府関係者に対しても、必要に応じて報告を行う予定である。その上で、日本学術会議会員はもとより、政府並びに国民の間で、我が国の学術に関する国際協力・貢献の在り方について十分な論議が行われるよう強く期待するものである。

6 終わりに、今回の代表団の訪米に当たり、格別の御協力をいただいたアメリカ合衆国側関係者及び在アメリカ合衆国日本大使館の関係者に対し、ここに深い感謝の念を表するものである。

学術分野における国際貢献について(会長談話)

平成4年10月22日

現在、我が国の国際的な貢献が強く求められており、各方面でその方策が討議されているところである。日本学術会議としては、平成3年10月の第113回総会において、時の坂本三十次内閣官房長官から、学術研究の分野で我が国がどのような国際的貢献をなすべきかについて全学問領域から総合的に検討するよう求められ、以来、特別委員会を設けて検討するとともに、今回の第115回総会においても、会員全員による討議を行った。

今回の総会での討議を踏まえ、私としては、次の点を強調したい。

1 本来学術の国際貢献とは、日本における学術研究成果を広く世界に伝達・発信し、学術の進歩に貢献することである。

2 海外から研究者が進んで来日し、優れた研究成果を挙げられるような高水準の研究施設を整備するとともに、外国人が日本の文化・学術を吸収する能力を高められるような諸条件を整備・充実する必要がある。

3 上記2を実現するためには、省庁の枠を超え、官民の総力を結集して、必要な資金の確保、人材の養成等についての基本方策を策定し、推進する新しいシステム(例えば学術協力機構)が必要である。

上記の趣旨を踏まえ、本会議としては、具体的な貢献策について提案すべく、全力を挙げて検討し、速やかに結論に達したいと考えている。

日本学術会議主催公開講演会

本会議では、毎年公開講演会を開催しています。この講演会は会員が講師となり、一つのテーマを学際的に展開しています。平成4年度最後の公開講演会が決まりましたので、お知らせします。多数の方々の御来場をお願いします。入場は無料です。

公開講演会「科学技術を通じての国際貢献」

日時 平成5年2月22日(月) 13:30~16:30

会場 日本学術会議講堂

演題・演者

「日本の科学技術」

西澤潤一 第5部会員
(東北大学学長)

「社会科学と自然科学との学際研究を通じての国際貢献」

松田武彦 第1部会員
(産能大学学長)

「日本の貴重な体験の伝授」

猪瀬 博 第5部会員
(学術情報センター所長)

「21世紀の科学技術」

近藤次郎
日本学術会議会長

(申込み先) はがきに、住所・氏名・郵便番号を明記し、2月15日までに下記宛てお申し込みください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議事務局「公開講演会係」

☎ 03-3403-6291 内線 227,228

御意見・お問い合わせ等がありましたら、下記までお寄せください。

〒106 東京都港区六本木7-22-34

日本学術会議広報委員会 電話03(3403)6291

日本分子生物学会 会報

年3回刊行（6月・11月・2月）

第44号（1993年2月）

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター 関西

（財）日本学会事務センター 大阪事務所